



ねぎし

横浜市立根岸小学校
学校だより
3月号 家庭数
令和5年2月28日

ホームページ



つなぐ

校長 杉山 真理子

いよいよ3月、令和4年度の締めくくりの時期になりました。

先日、5年生と6年生が「バトンタッチの会」を開きました。6年生は「最高学年としての極意」を自分の経験を出しながらスピーチし、それを5年生は真剣な表情で聞いていました。

3月は、リレーに例えるとバトンゾーンだと思います。一人一人が一学年上の自分にバトンを渡す月です。また、学校全体の役割でいえば、6年生が5年生へ、5年生は4年生……2年生は1年生へと、バトンを渡す月でもあります。特に、学校の要である6年生は、根岸小学校のリーダーとしていろいろな場面で役割を果たしてくれました。このバトンは重かったかもしれません。走りにくかったかもしれません。しかし、このバトンを持って仲間とともに走り切ることで、思いやりや優しさ、責任感、強く逞しい心を身に付けていきます。そして、5年生は、このバトンを引き継ぎます。最初は、6年生のように上手に走れないかもしれません。でも、きっとバトンをしっかりと受けとめ、力を発揮してくれることでしょう。根岸小学校では、このように149年間、バトンをつないできました。バトンを渡してくれた6年生や卒業生にあこがれ、一歩でも近づこうと努力し、バトンを次に渡す。それが伝統を築いていきます。

ところで、リレーに勝利する極意は何でしょう。私は「感謝と信頼」の気持ちだと思います。次走者は前走者の走りを決して批判せずに、バトンをつないでくれたことに心から感謝して走り続けること。そして、前走者はバトンを渡した後、次走者の走りを信頼の気持ちをもって、ひたすら応援し続けること。バトンをつなぐことが心をもつなぐことになるのだと思います。

このバトンパスは、学校だけでなく家庭や地域社会でも同じことが言えると思います。この春バトンを渡す、あるいは渡される全ての人にバトンとともに『感謝と信頼』の気持ちもつなごうことを願っています。これまで根岸小学校のバトンをつないでくれた6年生が、地域や保護者の中にはたくさんいらっしゃいます。いよいよ、根岸小学校での150回目のバトンが渡されます。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様には、この1年、学校運営に対して多大なご理解とご協力をいただきました。「何かできることはありませんか？」の一言を何度聞いたことでしょうか。本当に、1年間ありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

**あのときのあの苦しみも
あのときのあの悲しみも
みんな肥料になったんだなあ
じぶんが自分になるための
(相田みつを)**

児童支援専任から

2013年に制定された「いじめ防止対策推進法」では、「心身の苦痛を感じているもの」といじめを幅広く定義しています。これにより、事案発生後の「対応的指導」とともに、児童が自らを自発的に発達させたり、いじめをしない態度や能力を身に付けたりする「未然防止・予防的指導」へ転換が図られています。

いじめの「積極的認知」は、子ども達の声に耳を傾け、見守りに入るための「キャッチ」、正しい関わり方の学びや健全な心の育成のスタートと言えます。

今年度、根岸小学校でも中期学校経営の柱の一つである「いじめへの対応」として積極的認知で早期発見と重大化の予防に取り組みました。今年度の認知件数は延べ108件（令和5年2月末時点）でした。これがすべてではなく、表面化せずに潜んでいるものもきっとあると思います。これからも積極的認知から、安心できる学校づくりやお子さんの健全育成につなげていきたいと思っています。来年度もご理解とご協力をお願いいたします。